



**全国国公立幼稚園・こども園
PTA連絡協議会**

会報

第58号
 発行者
 全国国公立幼稚園・こども園
 PTA連絡協議会
 会長 猪木直樹
 事務局
 岡山県倉敷市玉島阿賀崎1-2-31
 玉島テレビ放送(株)内
 印刷
 株式会社玉島活版所

「雲出洞中明」

全国国公立幼稚園・こども園PTA連絡協議会
会長 猪木直樹



世界的にパンデミックとなった新型コロナウイルス、今なお日本においても猛威を振っています。ワクチンが開発され、これからどうなっていくのだろうか、終着駅の景色は何が見えるのだろうかと期待と不安が頭をよぎります。今年もコロナという言葉に左右されそうですが、ウィズコロナと言っていたのではこのパンデミックは抑えきれないのかもしれないかもしれません。目指すはあくまでもコロナに打ち勝つゼロコロナであるべきだと思います。ワクチン・PCR検査・マスク・3密回避・ソーシャルディスタンス・テレワーク・時短営業・ステイホーム等様々な単語が出回っていますが、これらはすべて手段にすぎないわけで、正しいビジョンとそれに向かうベクトルを同じくすることが大切で、ゴールであると思います。この一年、生活様式が様変わりし、ある意味新しい時代を迎えています。何年か前にこれからの時代はAIやIoTの技術革新が進み、ソサエティ5.0の社会へ突入していくので、だからこそ、子どもへの教育の在り方を踏まえ、新しい時代に合った物の見方、考え方を構築していかなければならないと認識したばかりでした。まさに今、形は違えどその流れは押し寄せてきています。これからの時代をどう生きていくか、しっかり考えていかなければなりません。その中で、どんな時代になろうとも不変のものがあるとするならば「子を思う親の気持ち」だと思います。親として、望ましい子育て環境をつくりあげ、幼児教育を含む教育そのものが益々必要不可欠で重要になってくるでしょう。そのためにも親としてできることを見つけ出し、取り組んでいくことが大切です。OECDも発表しているように幼児教育の重要性が認識されているにもかかわらず、我が国においては予算的にもまだまだ不十分です。今こそ、行政にこのことについて理解

と充実を図っていただきたいと強く思います。この件は、子を持つ親の責任として、日本PTA全国協議会・全国高等学校PTA連合会・全国国立大学附属学校PTA連合会と連携しながら国に提言して参ります。だからこそ幼児教育における正しいビジョンを掲げ、みんなで力を合わせ取り組んでいくことが最大限必要となってくるのではないのでしょうか。国公立という公の立場から未来を見据えた教育の在り方をしっかりと確立し、進めていきましょう。全国国公立幼稚園・こども園PTA連絡協議会の昭和38年設立という歴史と実績を財産ととらえ、先人たちが残してくださった思いも継承していきましょう。また、常に幼児教育の研究を重ねてくださっている園長先生をはじめ幼稚園そのものもしっかり共存共栄していけるよう努力していきましょう。人間教育の基盤であり、スタートである幼児教育を必要不可欠で絶対的なものにしていくためにと強く思います。PTA活動においても今年は単位PTAごとにしっかりと取組、すばらしい教育環境をそれぞれに整えていくことに力を注ぎましょう。その集合体こそが我々の組織であり、日本の未来だと信じています。

本年8月には新潟県において全国国公立幼稚園・こども園PTA全国大会新潟大会を開催する予定です。コロナ禍の中、先行き不透明ですが、全国の会員の皆様に我々が組織の存在意義を示し、様々な有意義な情報を発信いたします。ご期待ください。

まさに迷いの雲が立ち込めていたが皆さんの努力の賜物で雲や霧が消え、心や気が明朗になっていくことをうたった「雲出洞中明」(くもいでてどうちゅうあきらかなり)

今だからこそその気付きを生かし、 全ての子どもたちに質の高い教育を

全国国公立幼稚園・こども園長会 会長 箕輪 恵美



全国国公立幼稚園・こども園PTA連絡協議会の皆様には日頃より、全国国公立幼稚園・こども園長会（以下、国公幼）及び各都道府県の園長会の活動をはじめ、各園の教育活動に多大なるご理解ご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

さて、令和2年に引き続き令和3年も、新型コロナウイルス感染症が猛威を振るっています。長引くコロナ禍に、各ご家庭では今までは考えもしなかったようなご苦労が多々あると思います。国公立の園でも、感染症対策と質の高い教育を行うことの両立に、日々尽力しています。一方で、このような状況だからこそ改めて考えたこと、気付いたことをよりよい幼児教育の創造につなげようと努めているところです。

例えば、昨年春の緊急事態宣言下で、地域によっては登園が難しい状況が続きました。この出来事は、子どもたちが幼児期に幼稚園・こども園という教育の場で過ごすことの意義を見つめ直す機会になりました。幼児期は、直接的な体験を通して学ぶ時期です。子どもたちの成長を促すためには、幼児の発達にふさわしい教育的な意図の込められた環境の中で過ごし、自ら回りの人やものに主体的に関わる体験を積み重ねることが重要です。幼児期の豊かな体験が生涯にわたる人格形成の基礎を培う、という幼稚園教育等の基礎基本を心に留めながら、私たち保育者一人一人が学び続け、よりよい教育を目指すことの大切さを再確認しました。

新型コロナウイルス感染症の拡大を防止するために、現在、各園では手洗い・手指消毒や換気を徹底し、健康維持に気を配っていますが、特に手洗いについては各ご家庭でも徹底されており、例年になく子どもたちに身に付いています。そのことが功を奏し、例年、冬になると流行していたインフルエンザや感染性胃腸炎が、この冬はあまり見られません。定期的な換気やこまめな手洗いはコロナ禍が終息してからもよい習慣として続けるようにし、自分の体を大切にす意識や健康を守るために必要な行動として身に付けさせていきたいと考えます。

コロナ禍でも教育を継続していく中で、地域によっては行事の開催を見送る、開催はするものの規模を大幅に縮小する、時期や取り組み方を変更する、ということが起きました。行事の変更や中止が生じた園では、それら

の行事に取り組む過程や、当日の活動の中で子どもたちに経験させたかったことを、違う形で経験できるように工夫をしました。併せて、例年通りにいかない状況を逆に生かし、一つ一つの行事の意義や取り組み方を再考し、子どもたちにとって意味のある行事を計画・実施することにつなげる機会にしています。

さらに視野を広げると、昨年春、世界の主立った都市で外出自粛が相次いだ中で、自然が見違えるように息吹を取り戻した、というニュースが流れました。アメリカのロサンゼルスでは高層ビル群の彼方に山々の稜線が見え、インドではガンジス川の汚染が驚異的に改善され、イタリアのベネチアでは運河が澄んで底まで見えたそうです。私の住んでいる東京でも、この時期は空が澄み渡っていました。私たち人間の行動がいかに自然に負荷を掛けているか、ということを実感し、環境問題を身近に感じた方も多かったのではないのでしょうか。地球規模の大きな問題ですが、幼児期の今から子どもたちに伝えるべきことがあるはずで、20年先、30年先の社会を牽引するのは、今、目の前にいる子どもたちです。そのときに、自分のことだけではなく広い視野をもって考え、行動できるようにしてもらいたいものです。そのために、社会的な出来事からもヒントを得て、自然と共存できる未来をつくる力の素地を幼児期から培えるような取り組みを考えるきっかけにしたいと思います。

コロナ禍は今しばらく続きそうです。働き方も生活様式も大きく変わろうとしています。このような状況だからこそ改めて各園で今までの教育の在り方を丁寧に振り返り、大切にすべきことを再確認して生かしていくこと、新たな取り組みを考えて実践することを心掛け、新しい時代にふさわしい幼児教育を真摯に追求していきたいと思ひます。

国公立の園の役割は、各地域の幼児教育の核として力を発揮し、全ての子どもたちに質の高い教育を提供することであると考えています。子どもたちは、身近な大人のあたたかな輪の中でこそ、心身共に健やかに成長することができます。これからも、PTA・地域・国公立の園が地域の子どもたちを真ん中にしながら連携を図り、行政の皆様にもお力添えをいただきながら、子どもたち一人一人の成長を支えてまいりたいと思ひます。

特別寄稿

八名信夫さんからのメッセージ

悪役商会俳優 八名信夫



私は40年近く全国各地に出かけて、皆さんにお願いしていることがあります。

多くの子供たちは、一つや二つは何か悩みを持っているもの。そんな折は子供との会話が一番いい。どんな話でもいいから、話をよく聞いてあげることが一番の特効薬であると思います。

「ありがとう」「こんにちは」と言いたいのに、声を出す勇気のない子供たちも大勢見てきました。そんな時は必ず子供の背丈にしゃがんで、こちらから声をかけてあげると、子供に笑顔が生まれる。優しく手か頭をタッチしてあげると、子供の目が優しくなるのがよく分かる。大切なことを子供たちから教わりました。

実は今、岡山県倉敷市玉島で「出会い ふれあい 人の味～こんにちは 八名信夫です」というテレビ30分番組の撮影をしています。先日取材の為、瀬戸内海が一望出来る敬愛幼稚園を訪ねました。

広い園庭で、園児たちが大声をあげて走り回り、追い駆けっこをしていました。私たちのスタッフやカメラを見付け、走り寄って来て、帽子をきちんと脱いで「こんにちは」「何のテレビですか？」と明るい声ではっきりと挨拶をして来ました。

東京の子供たちが、なんだか可哀想な気がしました。こんなに飛び回ったり、大声をあげて追っ駆けっこなんかは到底出来ません。公園に行っても「走っちゃだめ」「キャッチボールや砂遊びもだめ」「大声を出しちゃ駄目」だめだめづくしで子供が育つわけがない。

園長先生は子供たちをじっと見守っていて、「子供には、全部学習なんです。」とおっしゃった。

友達とぶつかって転びそうになっても、先生たちは走って助けにいこうとせず、見守っている。その子は起き上がり、又走り出した。

先生のおっしゃるとおりだ。ちょっと転びそうになった子は、自分でしっかり身体を起こして、又走り始めた。「大丈夫？」と声をかける子もいる。なるほどな。大人たちはともすると「あっ！危ない！」「危ないからやめなさい」と先に手を出してしまいそうだけれど、それでは、子供たちの為にならないんだ。はじけるような笑顔で走る子供たちと先生に、大事なことを教わりました。

一方で、子供たちの事件が多いことに、心が痛みます。火事、交通事故、虐待、誘拐、色々な子供の事件を聞く度に、周りの大人たちはどうしていたんだろう？見て見ぬふりをしなければならなかったのだろうか？と真剣に考えます。

たとえよその家のお子さんでも、見守って、時には声をかける。前はそういう大人たちが町や村に必ずいました。「ふざけて遊ぶな。車が来るぞ」「花火を上からのぞくな。怪我をするぞ」どこかのおじさんやおばさんが叱って、色々な事を教えてくれました。私は腕白だったので、おふくろが、あとから謝りにあちこちへ行ったと、大きくなってから聞きました。

今でも、子供の頃に住んでいた所へ行くと、この川で八百屋の親父に叱られた。神社の境内でキャッチボールをやっていて窓ガラスを割って叱られたなどと、大人の皆さんに教わったことが懐かしく思い出されます。

講演で全国各地に出かけた時、よく話すのですが、朝大人の皆さんが家の前を掃除したり、散歩をしている時幼稚園や学校に行く子供たちを見かけたら「おはよう」、帰りの時間なら、「お帰り。今帰って来たの？」と声をかけて、見守ってやりましょう。町のあちこちで、大人たちが見守っている所だと分ると、子供に犯罪者が近付けなくなります。見かけない怪しい車や子供に声をかけようとする者も近付けなくなります。安心安全な街づくりを大人たちがしましょう。大人が大人を逃げずに、他人の子も愛情をもって見守って育てることが大切。子供は、その街、その国を担っていく将来の宝です。大切に育ててこそ、安心して暮らせる第一歩です。

私は東日本大震災があった宮城県気仙沼市と南相馬市へ俳優たちを連れてボランティアに通いました。

がれきの中でボールを蹴って遊んでいた子供たちがいたので、声をかけました。「今何か出来ることはないかな。薬とか学用品とか」すると、十歳位の男の子が手をあげて「僕は、家も、おばあちゃんも妹も流されて、まだ見つかっていません。でも、僕には、ふるさとがあります。大人になって、ふるさとの為に役に立ちたいです」そう言ったのです。ショックでした。

自分も何か力になりたい、と映画「おやじの釜めしと編みかけのセーター」を創りました。雪深い山の中から都会に出た娘と孫を探す物語です。その撮影中に、熊本に大きな地震が起こって、沢山の仲間たちが被災、人生をかけて築いた物を失って、それでも笑顔で乗り越えようとしていました。辛い気持ちを笑顔で。熊本の人たちと熊本で映画を創って、制作費を寄付し、映画に参加して貰って、何か前に向かう気持ちを届けたいと映画「駄菓子屋小春」を完成させました。この二本の映画を届けると、行く先々で、皆さんが笑って泣いて「じいちゃんって言われるとたまらんかった」「ふるさとが、あんなに綺麗だったとは！いつも見ているから何にも感じなかったけど」と、涙目で話しかけるお母さんもいらっしゃいました。

「ふるさとの大切さ、家族の絆、思いやりの心」

突然起こる災害、猛威を振るうコロナウイルス。大人の私たちは、懸命に復興に、ウイルス対策にと向かいますが、それでも、小さな子供たちに残ってしまう事もあるかも知れません。

でも、自然豊かなふるさと、家族の絆、人を想う優しい心は遺してやりたいと想います。

「運転手さん、ありがとうございます」とバスを降りる時、大きな声で挨拶した園児。電車の中でお年寄りに席を譲った少年。あの子たちにも沢山の未来を届けることが出来たらいいなと強く思います。

令和2年度優良PTA文部科学大臣表彰

おめでとう

心豊かに たくましい子の成長を願って

岩手県奥州市立小山東幼稚園PTA

副園長 猪股 登喜子

この度は、令和2年度優良PTA文部科学大臣表彰をいただきました。この表彰は歴代の保護者の皆様や教職員、そして地域の皆様方の温かいご支援の賜物と心から感謝しております。本園は、岩手県の南部に位置し田園が広がる自然豊かな場所にあります。現在3学級29名の子どもたちが在籍しております。

本園のPTA組織は、役員14名、3部体制(教養部・環境部・広報部)と学年PTAを基盤にそれぞれの活動を計画的に進めています。ここでは、主に学年PTAの活動について紹介いたします。

3歳児—歯科医師による歯磨き指導(6月)

3歳児学年は、例年地域の歯科医師の協力で歯科指導を行っています。子どもたちは歯科助手の方から、紙芝居でむし菌にならないために大事なことを学びます。また、保護者は、歯科医の先生から、歯の大切さについて学びます。その後親子で歯磨きをします。染め出しをし、磨き残しの箇所をチェックします。この取り組みの継続により、むし菌を作らないことへの保護者の意識が高まってきています。



4歳児—親子で夏祭りのうちわ作り(7月)

例年7月に、子どもたちだけではなく、地域の方や、保護者、

兄弟、祖父母の方々をお招きし、夕方から夏祭りが行われていました。今年度の夏祭りは、新型コロナウイルス感染症予防対策のため、子どもたちのみ保育時間に行いました。うちわ作りは、事前に親子で集まり、夏祭りで使うのを楽しみにしながら、きれいに飾りつけました。



5歳児—奥州宇宙遊学館見学(8月)

奥州市には国立天文台水沢があり、その敷地内に奥州宇宙遊学館があります。大人から子どもまで宇宙科学を楽しく学べる展示がしてあります。親子で一緒に、地球の砂と月の砂の違いや、惑星の重力の違いなど、宇宙の不思議を体験しました。地域にいろいろな施設があり気軽に足を運べることを保護者の方に感じていただける機会になりました。

園児数減少により、今後は活動内容、規模などを見直していくことが課題です。地域との結びつきを大事にし、保護者が子どもの成長を感じ、保護者同士の関わりも深まるようなPTA活動を模索していきたいと思っております。



『みんななかよし！子供たちのために 保護者・地域・園が手を取り合って取り組む活動』

富山市立新保なかよし認定こども園

園長 藤岡 亜紀子

今年度は、新型コロナウイルス感染症感染防止のためこれまでのようなPTA活動を行うことが出来ない状況とな

りました。保護者の中にもどのように活動を行ったらいのかという不安が広がっている様子が感じられました。そんな中、令和2年度優良PTA文部大臣表彰をいただくことになり、保護者にとって大変な励みとなったようです。歴代の保護者の方々や教職員、地域の方々の温かいご支援とご協力の賜物と心から感謝しております。

立山連峰を仰ぐ位置に建つ本園は、富山市のベッドタウンとして年々人口が増加し、空港や大型公共施設、スポーツ施設等も集中した地域にあります。大型の公園も多く、子供たちがのびのびと育つ環境が整っています。本園の子供たちは地域の施設を日頃から利用させていただいており、地域の方々に見守られながら育つと言えます。



園児数は現在約170名で、1歳児から5歳児までが元気に過ごしています。就労率が年々上がる中、保護者は幼稚園教育を大切に考え、様々なPTA活動に積極的に参加をしてくださっています。今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で園行事やPTA活動の縮小、中止を余儀なくされました。しかし保護者からは「できる限り子供たちの大切な経験の場を保障したい」という声が聞かれ、保護者、地域、園で協議・工夫をしながら行事を実施してきました。例年の活動の主な内容は、園での緑日の開催や校区の小学校や地域と行うもちつき大会の主催、食育の一環としてのサツマイモの苗植えや芋掘り、学級活動や講師を招いての講演会等です。

「サツマイモ苗植え」

子供たちの食育の一環としてサツマイモを育てていますが、



PTA役員はその苗を子供たちと一緒に植えてくださっています。

苗の上手な植え方を子供たちの側で丁寧に手を添えながら教えてくださるので、子供たち

も「分かった。今度は自分でやってみるね」「〇〇ちゃんのお父さん、教えてください」とお父さん・お母さん先生たちに進んで声をかけ、秋の収穫を期待しながら苗植えを楽しんでいます。秋にたくさんのサツマイモが実ると役員も子供たちも泥だらけになって夢中で芋掘りを楽しんでいます。子供たちと同じ気持ちと目線で、一緒に収穫の喜びを感じてくださるからこそ、子供たちの心に豊かな実りをもたらしてくれているのだと思います。

「緑日」

夏の子供たちの一番の楽しみは、PTA主催の緑日です。

役員が中心となって園内で緑日を行います。バザーやゲームコーナー、飲食スペースを担当が運営し、子供たちを楽しませてくれます。また各コーナーを役員が担当することで「ぼくのお母さんがお店をやっている」「私のお父さんのゲーム、楽しかった」といつもと違う親の姿や園のにぎやかさに、子供たちの笑顔がはじけています。

子供たちが楽しむことが一番のねらいですが、保護者同士と一緒にコーナーを担当することで親睦を図ることができる大切な活動と考えています。今年度は残念ながら中止となってしまいましたが、例年家族や友達と一緒に参加する機会が多く、毎年楽しみにしている方が多い行事です。

「校区もちつき大会」

12月初旬。地域の自治振興会の事業の一環としてもちつき大会が行われています。これを当園のPTA会が運営しています。地域の方々、校区の小学校も参加しての大きなイベントで、約300人程度の来園者があります。杵と臼を使っての本格的な餅つきを、住民の方々や役員が協力して行ってくださいます。もちろん園児や小学生も一緒に餅つきを体験し、ついた餅を役員にその場で丸めてもらっていただきます。子供たちは餅米を蒸すところから見学し「いいにおい」「早くお餅食べたい」「この杵、重い」と期待いっぱい餅つきに挑戦しています。今では珍しくなった臼と杵でついた餅はとても柔らかく、食べた瞬間から笑顔になるおいしさです。昔ながらの日本の伝統行事を保護者、地域、園と一緒に体験できることの素晴らしさを毎年感じています。



おわりに

保護者の就労率は年々上がっており、執行部をはじめとする会員の負担が徐々に増えています。その中でもPTA活動に参加することで、子供たちの成長がより感じられ、保護者間の交流も深まっているという声をいただいています。今後も保護者、地域、園が協力し合って、笑顔あふれるPTA活動が行えるよう努めていきたいと思っています。

園児を育むPTA活動

大阪市立瓜破北幼稚園

令和2年度PTA会長 坂本 一真

PTA副会長 濱嶋 法子

1 はじめに

本園は、昭和44年に大阪市立瓜破北小学校併設園として設立され平成11年に小学校より独立。創立52年となります。畑や田んぼ、果樹園や野草園がある自然豊かな南園庭と思いい切り体を動かし遊べる北園庭と、広い園庭が特色です。

地域は、大阪市東南部の平野区に位置し、市営住宅や中高層住宅が建つ比較的新しい街並みと、農地や遺跡なども残る歴史ある街にあります。平野区の人口は大阪市第1位で、子どもの数も多いです。近年共働き家庭が増えるなどの影響か、園児数は年々減少傾向にあります。令和2年度の園児数は3歳児20名、4歳児16名、5歳児25名の計61名です。

2 PTAと活動の見直し

本園は未就園児を育てている保護者が多く、どの保護者も参加しやすい体制にと令和2年度に組織と活動の見直しをしました。男性役員を増やし、実行委員会も6つを5つに統合。活動内容を見直し、園芸係・絵本係も委員会所属に再構成しました。また、コロナ禍を受け、幼稚園とPTAが話し合い、全保護者対象に行事アンケートを取りました。結果、園外に出かける活動は見送り、感染対策をしっかりと行った上で園内での活動を充実させることにしました。わんぱくまつりや一日動物村、凧揚げやボールで遊ぼうなどをPTAと園で計画し、園児の学びの場を守ろうと幼稚園と保護者の気持ちを一つにすることができました。

3 PTAの事業活動

(1) 園内整備に向けて

歴代のPTAが教員とともに開墾し毎年果樹を植え整備してきた園庭は園の宝である一方、放置すれば雑草がはびこるため、地域委員会と園芸担当が活躍します。全親子で行うクリーンキャンペーンを実施したり、保護者だけで雑草を抜いたり落ち葉を集めたりして整備します。小さいきょうだいも一緒になって葉っぱを集める姿は微笑ましく、園児のありがたいの声に保護者も笑顔になります。

絵本コーナーの絵本は、全園児が毎週末に自宅に持ち帰り楽しむ“貸出絵本”です。赤ちゃんを抱えたお母さんたちが、和やかにお互いの子をあやしめながら、分担して絵本の修理や整頓を行います。おかげで、全園児が年間60冊以上の絵本を借りて親しんでいます。修理をしてきている保護者



の姿を見ることから、絵本を大切する気持ちも育まれるのではと期待しています。

(2) 広報活動

行事に参加し、子どもと一緒に楽しい時間を共有しながら写真撮影をします。保護者の特技を生かし、写真やイラスト、貼り絵など工夫を凝らした手作りの



の広報紙ができあがります。実際に園児と活動を経験し紙面にすることで、園の教育への理解も深まります。

(3) わんぱくまつり



感染症拡大防止のため実施を見送った夏祭りを10月にできないかと、委員会を中心にみんなで考え、遊びのコーナーの精選・準備や開催時間の短縮・換気や消毒・人数の制限など三密を避けることを徹底して開催しました。例年とは違うコーナーを工夫し、園児が遊びを楽しむ姿を見て、保護者も充実感や達成感を味わいました。

(4) PTAコーラス隊

「歌が好き」や「子どもたちを楽しませてあげたい」という保護者が集まってコーラス隊を結成し、近隣の幼稚園と合同で活動したり、全市で取り組む“大阪



市立幼稚園うたごえひびけなにわっこ”に参加したり、園内のお楽しみ会で歌声を披露したりしています。特に、12月実施のお楽しみ会では、仮装をした楽しそうな保護者の姿に園児も大喜びで、思わず一緒に歌って楽しめます。

令和2年度は、残念ながら新型コロナウイルス感染症拡大防止のため取り止めませんでした。

4 まとめ

園の実態に応じて組織を編成し直したことで、無理なく参加する形ができました。コロナ禍でもできることを前向きにみんなで考え、活動内容・場所を工夫し、感染症対策もみんなで守り合い取り組んだことで、保護者が心一つにすることができ、園児の教育活動を支えることができました。考えること・意見を出し合うこと・実際に活動に取り組むこと等、PTA活動には様々な形で参加できます。それぞれの状況に応じて参加する中でも子どもの成長を実感し、園の教育についても知ることができると実感しました。

今後も、みんなで取り組めるPTA活動の良さを踏まえて活動を楽しみたいと思います。



令和2年度優良PTA文部科学大臣表彰受賞者一覧

岩手県	小山東幼稚園PTA	大阪府	大阪市立瓜破北幼稚園PTA
福島県	白河市立小田川幼稚園PTA	大阪府	貝塚市立中央幼稚園PTA
群馬県	前橋市立宮城幼稚園PTA	兵庫県	宝塚市立未成幼稚園PTA
東京都	港区立中之町幼稚園PTA	岡山県	笠岡市立大井幼稚園PTA
東京都	文京区立青柳幼稚園愛育会	徳島県	美馬市立江原認定こども園PTA
富山県	富山市立新保なかよし認定こども園親進会	香川県	観音寺市立大野原幼稚園PTA
静岡県	小山町立駿河小山幼稚園PTA	佐賀県	小城市立三日月幼稚園父母の会
京都府	京都市立中京もえぎ幼稚園PTA		

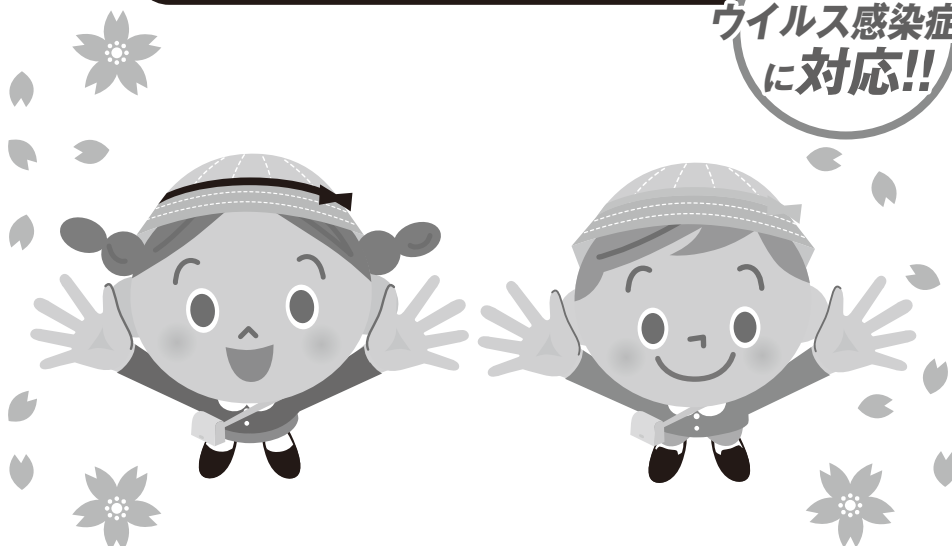
2021年度版

全国国公立幼稚園・こども園
PTA連絡協議会 推薦

園児まもるくん[®]

園児総合保障制度(こども総合保険)

新型コロナ
ウイルス感染症
に対応!!



手頃な掛金

PTAが窓口の団体加入制度
だから、全国団体の割引が
適用されています。

※団体割引、損害率による割引

簡単な請求手続き

ケガによる入院・通院、
病気による入院・手術で10万円以下
のご請求は電話による事故報告で
保険金をお支払いします。

示談交渉サービス

日本国内で賠償事故の加害者と
なってしまった場合、示談交渉
サービスがご利用になれます。

第59回全国国公立幼稚園・こども園PTA全国大会新潟大会

新潟大会運営委員長 大島 洋平



第59回全国国公立幼稚園・こども園PTA全国大会新潟大会運営委員長の¹大島と申します。

2021年夏に、「羽ばたけ未来に 朱鷺（トキ）めく子どもたち！！～笑顔の花を咲かせよう 自然豊かな新潟で～」を大会テーマに新潟市にて全国大会を開催いたします。

2020年は、例年とは違うコロナ禍での制限の多い生活となりました。子どもたちは幼稚園が休園になったり、お友達とこれまでのように手を繋いだり、おしゃべりが自由にできない中で遊ぶことになったり、マスクをしながらの不自由な生活になったりと、ストレスも大きかったと思います。2021年もまだ心配は続きそうですが、その中でも子どもたちの笑顔を守るために何が出来るのかを、皆さんと協力し、情報交換をしていけたらと思っています。

大会に来ていただいた時に、新潟をより楽しんでいただけるように、新潟の良いところを3つ紹介させていただきます。

1つ目は、豊かな自然です。

長い冬が明け、待ちわびた太陽の光がさんさんと降り注ぐ春には、子どもたちは、畑作りをして、野菜の苗を植えたり、冬眠から覚めた虫たちを追い掛けたり、花を使って色水を作ったり、自然と触れ合いながら遊んでいます。身近に自然が溢れる新潟では、登園時やお散歩をしながら、道ばたにフキノトウやタケノコなどが生えており「あれは何かな」と春を見付けながら歩くことも楽しめます。

夏は、地域のお祭りや花火、海水浴を楽しみます。お祭りは、新潟祭りなどの大きなお祭りもありますが、地域ごとの昔ながらのお祭りも多く残っています。子どもたちは、大きいお兄さんやお姉さん、地域の方々と一緒に「わっしょいわっしょい」と町を練り歩きます。

花火は、長岡花火や柏崎花火など、全国的にも有名な花火大会がたくさんあります。

縦に長い新潟県は、海水浴場も地域により異なる特徴があります。例えば、新潟市内は砂浜で、上・中越の方に行くと、柏崎の岩場の海水浴場や、糸魚川の大きな石がごろごろあるような海岸もあります。

秋には、子どもたちは、稲刈り、くだもの狩り、落ち葉遊び、春に植えたサツマイモで焼き芋をして、冬に入るまでの晴れ間を楽しんでいます。越後平野の田んぼに、たわわに実った稲穂が風に揺れている風景も見どころです。

冬には、もちろんスキーです。新潟県には、40か所を超えるスキー場があり、日本で3番目に多い県だそうです。湯沢高原スキー場や苗場スキー場のような大型で県外の方からも有名なスキー場から、地元の小さなスキー場まで、身近にたくさんのスキー場があります。

2つ目は、食べ物です。

新潟の代表的な食べ物と言えば、お米です。お米を使った

商品もたくさんあります。県外から来た人は、スーパーの米菓の品数の多さに驚いたそうです。子どもたちが食べる給食でも、米粉を使ったパンや麺が出ることがあります。

果物も豊富にあります。中でも、新潟県内でしかなかなか味わうことが出来ない、ル・レクチェ（西洋梨）や越後姫（苺）は美味です。

夏の枝豆は、銘柄が多く、日本で一番多く枝豆が作られているとも言われています。多くの品種が作られているため、初夏から秋の初め頃まで、長い期間、旬を楽しむことができます。また、あっさりしたものからコクの深いものまで、様々な味を味わうことも出来ます。大人も子どもも大好きで、食べ始めると止まりません。

その他にも、魚介類やキノコなど、海の幸山の幸、美味しい食材がたくさんありますので、是非味わってみてください。3つ目は、人です。

雪国で培われた我慢強さと人の繋がりを大切に作る人の良さがあります。

核家族化が進む中、赤ちゃんからお年寄りまで、多世代と一緒に生活している家庭も多くあります。子どもたちはおじいちゃんやおばあちゃんと一緒に暮らし、生活の知恵を学び、パズルやかるた、折り紙やコマなどで遊び、挨拶や食事マナー、大人数で過ごすマナーを自然と学びます。子どもたちには人を思いやる豊かな心が育ちます。

地域住民同士の関わりも多くあります。お祭りや地域運動会、幼稚園の行事に、地域の方たちは積極的に参加して下さいます。そこで知り合った方たちが、登園時に挨拶をして下さったり、子どもたちが遊んだり、季節の行事を楽しむための道具を用意して下さったりします。地域に知り合いが増えることは、子どもにとっても親にとっても安心な地域となると感じています。

そして、新潟は知られざるマンガ王国です。数多くの漫画家を輩出しています。

例えば『ドカベン』の水島新司さん、『犬夜叉』の高橋留美子さん、『DEATH NOTE』の小畑健さんがいらっしゃいます。

このように、新潟の自然と美味しい食材が、素晴らしい人を育み、さらにこれからの子どもたちが未来に羽ばたく力を育てていってくれています。子育てをするのにとっても良い環境が揃っているのが新潟県です。

まだまだたくさんの魅力がある新潟県ですが、紙面ではお伝えしきれないのがとても残念です。コロナの心配がある中ですが、8月には皆様に新潟に来ていただき、直接新潟の魅力を満喫していただきたいです。そして、共に子育てをする同士として、子育ての素晴らしさや希望を一緒に楽しく語り合えますことを、心より願っております。